走る泳ぐ 命のため

海難救助の技術などを競う第38回全日本ライフセービング選手権が6、7日、神奈川県藤沢市の片瀬西浜海岸で開かれた。東日本大震災後、大津波の際に現場で率先して避難させる存在としてライフセーバーは注目されている。水の事故による犠牲者を減らし、命を救う誇りを持って、参加者は速さ、強さ、正確さを競った。

第38回全日本ライフセービング選手権

一日一日が本番

日本ライフセービング協会・小峯力理事長のあいさつ（要旨）　メダルを獲得したとしても、命を救うという哲学を思い続けていなければ、そのメダルは輝き続けない。ライフセービングは命を救うスポーツとして、一日一日が本番だ。大津波の時には率先して避難させる存在として、国民の命をいかに助けるか考えていきたい。

記録

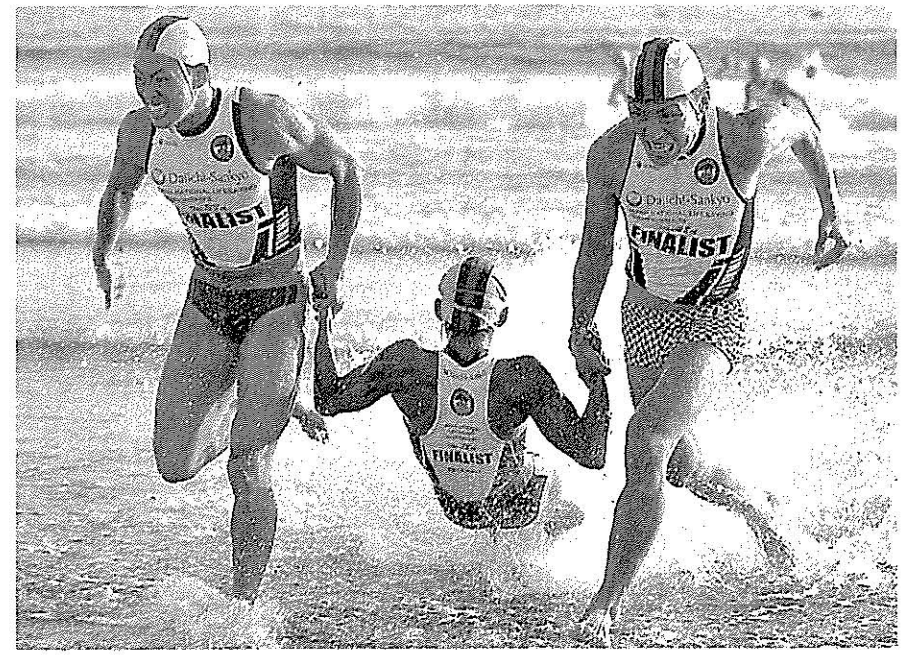
【男子】サーフレース ①平井康翔（湯河原）②益子（九十九里）③菊地（九十九里）▽サーフスキーレース ①松沢斉（下田）②落合（東京消防庁）③西山（湯河原）▽ボードレース ①小林海（西浜）②青木（湯河原）③坂本（波崎）▽オーシャンマン ①長竹康介（西浜）②西山（湯河原）③落合（東京消防庁）▽ビーチフラッグス ①竹沢康輝（勝浦）②佐々木（相良）③安達（新島）▽ビーチスプリント ①石井雄大（白浜）②岡田（愛知）③岩井（鴨川）▽2キロビーチラン ①浅見泰希（東京消防庁）②河上（東京・昭和第一学園高）③新堀（土肥）

【女子】サーフレース ①三井結里花（九十九里）②坂本（西浜）③毛利（館山）▽サーフスキーレース ①篠郁蘭（新島）②久保（和田浦）③小松崎（下田）▽ボードレース ①篠郁蘭（新島）②勝俣（西浜）③宮田（飯岡）▽オーシャンウーマン ①三井結里花（九十九里）②名須川（茅ケ崎）③三木（湯河原）▽ビーチフラッグス ①池谷雅美（柏崎）②但野（勝浦）③宮崎（鴨川）▽ビーチスプリント ①池谷雅美（柏崎）②山田（鴨川）③神戸（西浜）▽2キロビーチラン ①鈴木さゆり（下田）②河本（下田）③佐々木（西浜）

【団体】オーシャンマンリレー ①西浜②湯河原③波崎▽オーシャンウーマンリレー ①湯河原②西浜③九十九里▽レスキューチューブレスキュー ①湯河原②拓大▽ボードレスキュー ①九十九里②湯河原③波崎▽ビーチリレー ①勝浦②飯岡③下田▽CPR（心肺蘇生法）コンテスト A評価＝愛知、熱川、岩井、大洗、大竹、鹿嶋、柏崎、勝浦、鴨川、九十九里、東京・昭和第一学園高、白浜、成城学園、館山、銚子、新島、西浜、沼津、櫟原、波崎、万座、三浦海岸、用宗、湯河原、若狭和田▽総合 ①西浜②湯河原③九十九里

【主催】日本ライフセービング協会
【後援】文部科学省、国土交通省、消防庁、海上保安庁、千葉県、愛知県、神奈川県、御宿町、南知多町、藤沢市、日本赤十字社、日本水泳連盟、オーストラリア大使館、豪日交流基金、朝日新聞社、日刊スポーツ新聞社
【特別協賛】第一三共

文・阿久津篤史　写真・加藤諒



レスキューチューブレスキューで優勝した湯河原

■レスキューチューブレスキュー

湯河原「自分たちの救助力が表れた」

競技力向上がそのまま人命救助力の向上につながるライフセービング。なかでも、120㍍沖まで泳いで溺れる役、レスキューチューブで助ける役、岸辺で溺れ役を2人でゴールに運ぶ役の4人1組で競うレスキューチューブレスキューは、実際の救助の場面を競技にした種目だ。これを制した湯河原の西山俊は「自分たちの救助力が表れたと思う」と、昨年の3位から順位を上げて胸を張った。

池谷19度目V

■女子ビーチフラッグス

女子ビーチフラッグスで優勝した池谷雅美（右）

砂浜で後ろ向きにうつぶせになり、約20㍍先のビーチフラッグ（バトン）を取り合うビーチフラッグス。2009年まで17連覇した女王が新しいスタートを切った。池谷（旧姓・遊佐）雅美。5月に結婚して姓が変わり、所属も西浜から新潟・柏崎に移った。「住んでいるところで事故が少ないのがいい」と願いながら、監視に立つ。10年に敗れたが、昨年からの連覇で19度目の優勝を飾った。今年はビーチスプリントとの2冠。「若手が伸びてきてこれからが楽しみ」

■オーシャンマン

長竹2年ぶりV「格別」

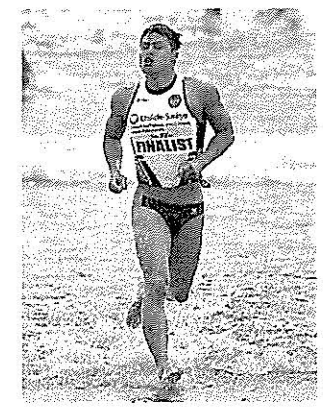
スイム、パドルボート、サーフスキー、ビーチランの4要素を1人で行うオーシャンマンの勝者は「ミスター・ライフセーバー」と称される。2年ぶりにその座についたのが、11月の世界選手権で日本代表主将を務める長竹康介（西浜）だ。「体力的に一番きつく、全部できないと勝てない。この種目での優勝は格別です」と喜んだ。神奈川・藤沢市消防本部の水難救助隊に勤務する30歳。「ゴールしてひざに手をついて疲れているようでは、さらに救助を待っている人を助けられない。競技直後でも平然と立っているようにしている」と話した。

オーシャンウーマンは日大3年の三井結里花（九十九里）が連覇し、サーフレースとの2冠。「自分が鍛えれば鍛えるほど、みんなが海水浴場で遊べる範囲が広がる」と話した。

五輪OWS出場の平井、貫禄の連覇

170㍍沖にあるブイを回ってゴールする男子サーフレースはロンドン五輪オープンウオータースイミング（OWS）日本代表の平井康翔（湯河原）が貫禄の連覇だった。昨年の合宿中に監視についてくれた西山俊に誘われたのがきっかけで昨年から参戦。五輪後は子ども向けのライフセービング体験会などにも参加した。「ライフセービング、OWS両方で世界一を取りたい」と意気込んだ。

■男子サーフレース



女子ボードレースで優勝した篠郁蘭（右）

海の楽しさもっと知って／子どもに広め、一緒に戦いたい

女子サーフスキーレース、ボードレース2冠の篠　旧姓鈴木。昨年11月にライフセーバー仲間と結婚して姓が変わった。「海の楽しさをもっとみんなに知ってもらいたい」

男子ビーチフラッグス初優勝の竹沢　国際武道大3年。埼玉栄高時代は新体操部だった。「部活紹介が熱かったので入った。将来は消防士になりたい」

男子ボードレースで連覇の小林　名前は「海」と書いて「まりの」。大学進学を目指して浪人中。「自分はジュニアで育ててもらったので、子どもにライフセービングの活動を広め、将来は一緒に戦いたい」

オーシャンウーマンリレーを制した湯河原の三木玲奈　昨年は東日本大震災の影響でこの種目が実施されず。神奈川・湯河原中の教諭である主将は「チームに貢献できてよかった」。

キッズがビーチフラッグス体験

競技の合間にはキッズビーチフラッグス体験会があり、東京都大田区から参加した馬込小1年の渡辺結渚（ゆうな）さん(6)は「砂の上を走れて気持ちよかった」と笑顔だった。

また、トレーニングキットを使った心肺蘇生法体験会もあり、東京都昭島市から親子で参加した丸田理香さん(39)は「思ったより大変だった。いざというときもあるので、やり方がわかってよかった」と話した。

東北の3会場では小中学生100人参加

全日本選手権の開催に合わせ「第一三共ジュニアライフセービング教室」が9月16日に山形市、同29日に青森県つがる市、10月14日に岩手県釜石市であった。

3会場で延べ100人の小中学生が心肺蘇生法や立ち泳ぎ、ペットボトルを使った水難救助などを体験した。